

太田橋

所在地：岐阜県美濃加茂市御門町

竣工年：大正15年

管理者：美濃加茂市

平成23年度
選奨土木遺産
登録

選定理由：中山道の難所の一つである木曽川太田の渡し跡に架けられた単純ワーレントラス鋼橋で、地域の発展を語るのに欠くことのできない存在である。

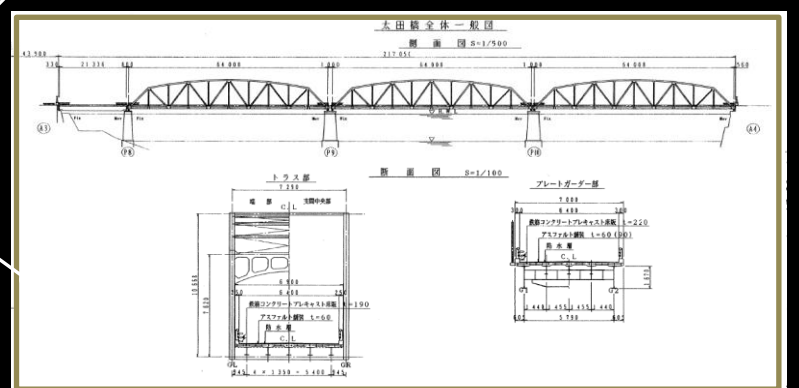


橋門構の題額

登録認定書

竣工図

美濃加茂市より可児市を望む



太田橋は、中山道太田宿と御嵩宿をつなぐ難所のひとつに数えられていた木曽川太田の渡し跡に、大正15年に国の大動脈のひとつである直轄国道21号の太田橋として架けられ、その後国道248号として岐阜県に管理が移り、平成21年4月から市道御門今渡線として美濃加茂市が管理をしています。太田橋は、3径間の橋長218m、幅員6.4mの下路単純ワーレントラスの鋼橋で、地域の発展と交通の要衝として大変重要な役割を担ってきました。しかし、交通量の増大と老朽化に伴い、上流側に新太田橋が架設され、主役の座を明け渡した後も、補修を繰り返しながら今尚現役で活躍しており、水面に美しい姿を映しています。

